

普代村

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 東日本大震災からの復興に向けた支援について            本村の沿岸地域に未曾有の被害をもたらした東日本大震災津波から3年5ヶ月が経過しました。            岩手県をはじめ関係機関等の被災地に寄り添ったご指導、ご支援に感謝をいたしながら、「あすへの一步 青い海（水産業）の復興へ」をスローガンに掲げた「普代村災害復興計画」を一日も早く達成し、完全復興を果たせるよう村をあげて努力をしているところであります。            今後におきましても諸復興事業の推進にご指導、ご支援をいただきますとともに、その十分なる財政措置にも特段のご配慮をいただきますよう要望いたします。</p>	<p>普代村の主要な産業である水産業については、漁船や養殖施設等の漁業生産基盤、産地魚市場等の流通加工施設の復旧・整備を進めるなど、漁業と流通加工業の一体的な再生に取り組んできたところであり、主な施設の復旧はほぼ完了し、今年度の普代村魚市場の水揚量は震災前に対して95%まで回復したところです。</p> <p>今後は、秋さけの資源造成、アワビの種苗確保に関係者と一体になって取り組むとともに、地域再生営漁計画の策定支援による漁業・養殖業の生産回復、担い手の確保・育成や久慈地域海の幸PR協議会と連携した水産物の新商品開発・販路拡大等についても取り組んで参ります。</p> <p>引き続き、国に対して復興事業の財源措置・確保を要望しつつ、今後とも、貴村の復旧・復興の推進を支援して参ります。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>
<p>2 太田名部漁港海岸（大沢地区）及び沢漁港海岸への海岸堤防の建設について            未曾有の被害をもたらした東日本大震災におきましては、海岸堤防の整備が遅れていた太田名部地区の大沢地内と堀内地区の沢地内では漁業関係の加工場・倉庫など全てが壊滅的な被害を受けるとともに、住宅の軒下にまで波やガレキが押し寄せたところがあります。</p> <p>両地区の漁業者が将来に向かって意欲を持ち漁業生産などに取り組むためには、災害に強い安全・安心な集落づくりに資する海岸堤防の整備が不可欠でありますので、海岸堤防の建設について、強く要望いたします。</p>	<p>県管理の太田名部漁港に隣接する大沢地区や村管理の沢漁港における海岸堤防の整備については、今回の津波の被災状況を踏まえると、両地区とも国庫補助事業の要件を満たすことが厳しいように思われますが、引き続き、村と協議・連携のうえ検討していくとともに、必要に応じて技術的な支援を行ってまいります。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>水産部</p>	<p>C</p>

普代村

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 主要地方道岩泉平井賀普代線の改良促進について            主要地方道岩泉平井賀普代線の本村普代橋から黒崎間は、地形・地質が悪く法面崩落が多発し、非常に危険な箇所が連続しております。</p> <p>現在も災害防除事業を実施していただき感謝しておりますが、本路線は小中学生の通学路線であり、産業の振興や広域的な観光連携にも重要な路線であります。</p> <p>つきましては、危険解消を図るための改良促進を下記のとおり強く要望します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 災害防除事業の継続            「普代橋からくろさき荘入口付近間」            2 歩道整備            「普代水門から普代橋間」</p>	<p>1 災害防除事業の継続「普代橋からくろさき荘入口付近間」            普代橋からくろさき荘入口付近までの区間で、平成24年4月に法面崩壊した黒崎橋右岸側については、平成25年8月に完成しました。            また、くろさき荘寄りの法面については、平成26年度の完成を目指し工事を実施しています。(B)</p> <p>2 歩道整備「普代水門から普代橋間」            御要望の区間に接する普代水門から普代浜トンネルまでの歩道整備については、貴村の御支援により平成26年度に完成する予定ですが、御要望の区間は事業用地の取得が困難であることから、早期の整備は難しい状況です。(C)</p>	<p>県北広域 振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B C</p>

普代村

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 一般県道普代小屋瀬線の改良継続について            一般県道普代小屋瀬線の本村内、茂市（年内渡橋）と普代（国道45号）間3.5キロメートルは、一部の一次改良に止まっており、自動車交通のみに依存する沿線住民から生活に密着する国道アクセス路線として、早急な整備が強く求められております。</p> <p>本路線は、岩泉町、田野畑村、普代村を結ぶ広域基幹農道（下閉伊グリーンロード）とも茂市及び芦渡地区で連絡し、地域間交流の促進、広域観光の振興、さらには、県内90分交通ネットワーク整備の推進にも大きく寄与し、また、東日本大震災の経験から、住民の避難や緊急物資の輸送、役場や消防分署、医科診療所などの災害対策の拠点施設との連絡も円滑になり、災害に強い村づくりにも資するものであります。</p> <p>本年度、一部区間について測量調査設計業務に着手いただき感謝いたしております。引き続きの事業推進と地域住民の悲願であります全区間の改良を実施されるよう、強く要望いたします。</p>	<p>○一般県道普代小屋瀬線〔茂市（年内渡橋）～普代（国道45号） L=3.5km〕            御要望の区間のうち、旧鳥茂渡小付近の約400m区間については今年度から調査を実施し、事業化については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきます。            そのほかの区間については、土地利用の状況、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。</p>	<p>県北広域 振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

普代村

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>5 二級河川普代川・茂市川及び普代川河口の整備について</p> <p>二級河川普代川及び茂市川は、大雨時に氾濫を繰り返しており、本村旭日区地内では床下浸水等の家屋への被害が発生しております。</p> <p>また、普代川河口は、東日本大震災による大津波以後、以前に県より整備いただいた導流堤が安定した流路となっておりますが、その導流堤の海側先端部分が被災したままとなっており、国立公園内の景観上も、ふ化放流事業用の鮭の捕獲にも極めて大きな支障がでてきております。</p> <p>つきましては、河口部分の早急な復旧対策と、普代川・茂市川の治水対策による家屋の浸水防止に万全な対策を講ずるよう、強く要望いたします。</p>	<p>茂市川と普代川については、河川パトロール等で河道内の土砂の堆積状況を確認しながら、河川管理上支障があると判断された区間について、土砂の撤去など適切に対応していきます。</p> <p>県内の河川改修事業については、近年の洪水により家屋の浸水被害が発生した箇所を優先的に進めているものであり、普代川、茂市川については、周辺の土地利用状況などを踏まえ、県全体の治水対策の中で緊急性、重要性、事業に対する地元の協力等を勘案しながら事業化の時期を検討していきます。</p> <p>また、普代川の河口閉塞対策については、河川及び海岸の管理に支障が生じないよう、村や地域の関係者と御相談しながら適切に対応していきます。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>
<p>6 陸中海岸北山崎自然遊歩道の災害復旧等整備について</p> <p>三陸復興国立公園に位置する本村には、美しい景勝地が多く、中でも、絶景地の「黒崎展望台」、日本の灯台50選の「陸中黒崎灯台」などは人気のスポットでありながら、公園施設の老朽化と災害復旧整備の遅れなどにより、利用者の安全対策はもとより、観光資源としての活用にも支障をきたしているところでもあります。</p> <p>陸中海岸北山崎自然遊歩道においては、決壊、土砂の崩落、橋の流失により通行止めとなったままの状況が続いておりますし、黒崎漁港からネダリ浜間においては落石の危険性が高いとのことから長期間閉鎖ともなっております。</p> <p>つきましては、「みちのく潮風トレイル」の普代村エリアのルートとして、本遊歩道などが早期に活用可能となるよう災害復旧へのご支援を賜りますよう特段のご配慮をお願いいたします。</p>	<p>みちのく潮風トレイルは、環境省が平成24年5月7日に公表した「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」の推進施策の一環として設定されています。</p> <p>この施策は、三陸地域を南北につなぎ、地域相互の交流を深めることができるほか、その整備により地域の防災機能も高まることが大いに期待されています。</p> <p>県としては、三陸復興国立公園の復旧・再整備と併せて、みちのく潮風トレイルの整備が積極的に行われるよう国へ要望していきます。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B</p>